

第37回建設業経理事務士検定試験

3級試験問題

注意事項

1. 解答は、解答用紙に指定された解答欄内に記入してください。解答欄外に記入されているものは採点しません。
2. 金額の記入にあたっては、以下のとおりとし、1ますごとに数字を記入してください。

↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
一	千	百	十	一	千	百	十	一
億	万	万	万	万	の	の	の	の
の	の	の	の	の	位	位	位	位
位	位	位	位	位				

3. 解答は、指定したワク内に明瞭に記入してください。判読し難い文字が記入されている場合、その解答欄については採点しません。
4. 設問中の各取引について、消費税は一切考慮しないこととします。
5. 解答用紙には、氏名・受験番号シール貼付欄が2ヵ所あります。2ヵ所とも、氏名はカタカナで記入し、受験番号は受験票に付いている受験番号シールを貼ってください。なお、受験番号シールがないときは、自筆で受験番号を記入してください。
(氏名・受験番号が正しく表示されていないと、採点できない場合があります。)

〔第1問〕 長野工務店の次の各取引について仕訳を示しなさい。使用する勘定科目は下記の〈勘定科目群〉から選び、その記号（A～X）と勘定科目を書くこと。なお、解答は次に掲げた（例）に対する解答例にならって記入しなさい。
(20点)

(例) 現金¥100,000を当座預金に預け入れた。

- (1) A社に対する貸付金の回収として郵便為替証書¥50,000を受け取った。
- (2) 現金過不足としていた¥30,000のうち¥13,000は本社事務員の旅費であり、残額は現場作業員の旅費と判明した。
- (3) 現場作業員の賃金¥350,000から所得税源泉徴収分¥25,000と立替金¥20,000を差し引き、残額を現金で支払った。
- (4) 工事が完成したため発注者に引渡し、代金のうち¥350,000については前受金と相殺し、残額¥950,000を請求した。
- (5) 建設現場で使用する機械¥1,000,000を購入し、代金のうち¥730,000は現金で支払い、残額は翌月末払いとした。

〈勘定科目群〉

A 現金	B 当座預金	C 未成工事受入金	D 仮受金	E 工事未払金
F 貸付金	G 現金過不足	H 外注費	J 完成工事高	K 完成工事未収入金
L 未払金	M 経費	N 給料	Q 立替金	R 労務費
S 機械装置	T 材料費	U 材料	W 預り金	X 旅費交通費

〔第2問〕 次の〈資料〉に基づき、下記の問に解答しなさい。
(12点)

〈資料〉

1. 平成×年3月の工事原価計算表

工事原価計算表
平成×年3月

(単位：円)

摘 要	A工事		B工事		C工事		D工事	合 計
	前月繰越	当月発生	前月繰越	当月発生	前月繰越	当月発生	当月発生	
材 料 費	34,900	×××	99,300	49,600	×××	36,200	75,200	418,700
労 務 費	17,700	83,300	56,200	×××	26,900	48,900	65,200	317,400
外 注 費	13,300	16,000	34,200	19,700	×××	56,300	×××	×××
経 費	9,500	24,300	×××	×××	18,600	25,300	12,300	149,700
合 計	×××	179,600	×××	131,600	169,000	×××	187,800	×××
備 考	完 成		完 成		未 完 成		未 完 成	

2. A工事・B工事・C工事は前月より着手している。
3. 前月より繰り越した未成工事支出金の残高は¥450,700であった。

- 問1 前月発生の外注費を計算しなさい。
- 問2 当月の完成工事原価を計算しなさい。
- 問3 当月末の未成工事支出金の残高を計算しなさい。
- 問4 当月の完成工事原価報告書に示される材料費を計算しなさい。

〔第3問〕 次の<資料1>及び<資料2>に基づき、解答用紙の合計残高試算表（平成×年12月30日現在）を完成しなさい。
 なお、材料は購入のつど材料勘定に記入し、現場搬入の際に材料費勘定に振り替えている。 (30点)

<資料1>

合計試算表
 平成×年12月20日現在
 (単位：円)

借方	勘定科目	貸方
999,000	現金	560,000
2,130,000	当座預金	1,600,000
2,066,000	受取手形	1,432,000
1,523,000	完成工事未収入金	840,000
696,000	材料	393,000
555,000	機械装置	
498,000	備品	
1,300,000	支払手形	2,523,000
423,000	工事未払金	956,000
1,113,000	借入金	3,322,000
899,000	未成工事受入金	1,633,000
	資本金	1,000,000
	完成工事高	3,650,000
2,325,000	材料費	
1,399,000	労務費	
955,000	外注費	
620,000	経費	
333,000	給料	
49,000	通信費	
26,000	支払利息	
17,909,000		17,909,000

<資料2> 平成×年12月21日から12月30日までの取引

- 21日 工事契約が成立し、前受金¥300,000を現金で受け取った。
- 22日 工事の未収代金¥500,000が当座預金に振り込まれた。
- 23日 材料¥130,000を掛けて購入し、資材倉庫に搬入した。
 ♪ 材料¥50,000を資材倉庫より現場に送った。
- 25日 外注業者から作業完了の報告があり、外注代金¥190,000の請求を受けた。
- 26日 現場の動力費¥30,000を現金で支払った。
 ♪ 掛買し、資材倉庫に保管していた材料に不良品があり、¥50,000の値引きを受けた。
- 27日 取立依頼中の約束手形¥480,000が支払期日につき、当座預金に入金になった旨の通知を受けた。
- 28日 材料の掛買代金の未払い分¥45,000を現金で支払った。
- 29日 現場の電話代¥15,000を支払うため小切手を振り出した。
 ♪ 完成した工事を引き渡し、工事代金¥1,000,000のうち前受金¥300,000を差し引いた残額を約束手形で受け取った。
- 30日 材料の掛買代金¥280,000の支払いのため、約束手形を振り出した。
 ♪ 借入金¥523,000とその利息¥13,000を支払うため、小切手を振り出した。

〔第4問〕 次の文の の中に入る最も適当な用語を下記の〈用語群〉の中から選び、その記号（ア～ス）を解答欄に記入しなさい。 (10点)

- (1) 材料の a を把握する方法として継続記録法と b がある。
- (2) 未収利息は c の勘定に属し、未払利息は d の勘定に属する。
- (3) 完成工事未収入金の回収可能見積額は、その期末残高から e を差し引いた額である。

〈用語群〉

ア 資産	イ 負債	ウ 直接記入法	エ 消費数量	オ 収益
カ 費用	キ 購入数量	ク 資本	コ 貸倒損失	サ 棚卸計算法
シ 間接記入法	ス 貸倒引当金			

〔第5問〕 次の〈決算整理事項等〉により、解答用紙に示されている栃木工務店の当会計年度（平成×年1月1日～平成×年12月31日）に係る精算表を完成しなさい。なお、工事原価は未成工事支出金勘定を経由して処理する方法によっている。 (28点)

〈決算整理事項等〉

- (1) 機械装置（工事現場用）について¥98,000、備品（一般管理用）について¥22,000の減価償却費を計上する。
- (2) 有価証券の時価は¥233,000であり、評価損を計上する。
- (3) 受取手形と完成工事未収入金の合計額に対して3%の貸倒引当金を設定する。（差額補充法）
- (4) 現金の実際有高は¥330,000であった。差額は雑損失とする。
- (5) 支払家賃には前払分¥9,400が含まれている。
- (6) 未成工事支出金の次期繰越額は¥563,000である。